

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教職教育研究センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教職課程履修者への指導・相談体制を強化（神戸三田キャンパスとの格差是正を含む）するために、教職員の増員等を含んだ具体的施策を推進する。	→学生相談室を中心とした教職課程全般にわたる学生支援の強化。スクールサポーター、スクールボランティア、スクールインターンシップ等へ参加する学生支援のための事前・事後指導の実施。教員採用試験に向けての学生支援（「教職勉強会」への教員の関わりの強化）。専任教職員の配属による神戸三田キャンパスにおける学生支援活動の充実。	B
2. 教育委員会等との連携により、教育研究活動の活性化を図る。	→連携協定を結んでいる教育委員会等との共同研究の推進。国及び地方自治体の要請に応じたセンター教員の派遣。教員免許更新講習、教職10年経験者研修の実施。受託研究員の受け入れ。	A
3. 同窓教員との連携強化を図るために、同窓教員対象の「教職研究会」を主催・共催するとともに、同窓教員を対象としたSNS（social networking service）を拡充していく。	→高弦会（兵庫県高等学校同窓教員の会）、関学教師の会（高弦会を含む、校種、地域を問わない同窓教員の会）等の同窓教員組織との連携強化。同窓教員を対象とした研究会の充実（現在は年6回開催しているが、これを年8回開催に増やす）。同窓教員を対象としたSNSの拡充（現在は参加者数10名であるが、これを200名に増やす）。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

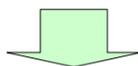
☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) 「関西学院大学らしい教員」の養成を目標に教職課程の運営に努めている。スクールモットーに基づき、同窓教員も含めたオールKG教員の育成に励んでいる。 (現状説明) 「教職勉強会」については、神戸三田キャンパスでも週1回開催されるようになり、10～15名程度の学生たちが、参加している。また、教員採用試験のための模擬面接には、毎年同窓の現役教員が、ボランティアで指導してくれている。ただ、日常的な学生指導や、スクールサポーター等への活動のための指導は、教職員の増員がなされていないため、十分ではない。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 2009年度中に高槻市教育委員会との包括協定を締結した。また、2009年度より開始された教員免許更新講習や、10年研修、教育委員会から派遣されてくる受託研究員の受け入れなど継続的に行っている。同窓教員のための研究会は2009年度は8回開催した。また、SNSのフレームが完成し、同窓教員に対して参加の呼びかけを行っている。
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 原則、週1回開催している「センター連絡会」や、月1回開催している「センター運営委員会」において、日常発生する学生指導についての諸問題や、文科省から発せられる各種情報について、全構成員が情報を共有するとともに、課題についての解決方法を議論している。また、「センター評議員会」を通じて、各学部等との教職課程運営上の諸問題について、連絡・調整を行っている。

☆	その他
---	-----

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	KSCでの「勉強会」の定着。
小項目0.0.2	高槻市教育委員会との包括協定締結や、免許更新講習の実施を実現した。また、同窓教員のための研究会を開催して3年目となり、安定的な運用が徐々に図れるようになった。
☆	小項目0.0.3 「教育実習校訪問指導」等に各学部教員も参画し、教育実習の現状や、諸問題についての認識等が得られている。
	その他



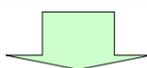
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	学生の指導を非常勤講師に頼らざるを得ない状況になっている。専任の教職員の増員を図り、定型的な業務として定着させる。
小項目0.0.2	他大学等の開催状況を調査するなどし、ニーズを把握した上で、講座を企画する。
☆	小項目0.0.3 「センター評議員会」を通じて、各学部等との教職課程運営上の諸問題について、認識をより一層深めてもらう。
	その他

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	学生への日常的な指導体制は満足な状態ではない。現在のセンターの人員構成では十分な体制が取れないため、増員が必要である。
小項目0.0.2	教育委員会との連絡を密にし、具体的な連携内容の構築を行う。また、そのために責任を持って対応するための教職員の増員を要望する。
☆	小項目0.0.3 教職課程が全学的な取り組みで行われるものであることを、大学の全構成員に理解してもらう。
	その他



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	他大学のように、退職した教員（特にOB）を任期制教員等として採用し、常時学生の指導に当たれるような体勢づくりを行う。
小項目0.0.2	他大学等の開催状況を調査するなどし、現状を分析した上で方向性を検討する。
☆	小項目0.0.3 「センター連絡会」や、「センター運営委員会」において、学生指導についての諸問題や、文科省から発せられる各種情報について、全構成員が情報を共有し、教職課程運営上の諸問題について、より一層深く協議する。また、「センター評議員会」の活用を努める。
	その他

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆	その他 (自由記述) 教員養成を取り巻く環境は、多様化してきており、現在いる5名の専任教員だけでは、十分に対応しきれない。また、非常勤講師がボランティアで協力していただいているが、善意に頼るのも限界がある。早急に専任教職員の増員が必要である。
---	---

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

○関西学院大学らしい教員の養成という目標を達成するために、いくつかの下位目標が設定されていますが、進捗状況の報告を見る限りほぼ達成されているようです。下位目標設定の再評価、新たな下位目標の模索が望まれます。
○KSCだけでは学外者にはわかりませんので説明をお願いします。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ 同窓教員のSNSは、総合教育研究室の支援を得て立ち上げることはできたが、支援がうち切られた2010年度以降の運用経費について、センターの限られた予算の中から捻出することは非常に困難である。折角立ち上がったネットワークを維持するために、何らかの経済的な措置を確保することが課題となっている。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
